

運動ヲ進展セシメ、繼テ必然的ニ強權ト衝突スルニ至リタル場合無政府共產社會ノ實現ヲ遂ゲン爲自覺セル民衆ノ中ヨリ盛上ル暴力ヲ以テ無政府主義革命ヲ完行スベシトノ所謂「建設ニ於ケル破壊」即チ「建設的暴力」ニ依ルベシ等ノ基本的素地事項ヲ協議シ、因テ運動形態ヲ分散聯合ノ自主行動ニ置キ、我國農村ヲ中心トシテ無政府主義ノ浸透ヲ圖リ、自由コンミュンノ樹立之ガ自由聯合ニ依ル無政府共產社會ノ建設ナル目標ノ下ニ、農民等民衆ヲシテ現實生活ノ中ニ自主自治、自給自足ヲ實踐化セシメ、之ヲ全村運動ニ提高揚シ、各地理區劃ノ緊密ナル連絡ノ下ニ、強テ強權ノ壓迫ニ反抗シ民衆ヨリ湧起スル各地理區劃ノ同時蜂起並之ニ伴フ都市無政府主義者ノ都市焼却ナル暴力革命ニ依リ各地理區劃ニ自由コンミュンヲ樹立シ其ノ自由聯合ニ依リ現政治權力等一切ノ強權並現經濟機構ヲ廢滅シタル無政府共產社會ノ實現ヲ目的トスル結社ヲ組織シ、同月二十日頃之ガ名稱ヲ農村青年社（略稱農村青年社）ト爲シ以テ被告人宮崎、同鈴木及同星野ハ我國體ヲ變革シ、私有財産制度ヲ否認シ、無政府共產社會ノ實現ヲ目的トスル結社ヲ組織シ

第二

(一) 被告人八木あきハ農村青年社組織當時即チ昭和六年二月頃被

告人宮崎ト内縁ノ關係ニアリテ、農青社ガ前記目的ヲ有
スル結社ナルコトヲ熟知ノ上其ノ頃右組織者ト共ニ之ガ
運動ヲ爲スベキ旨盟約シ以テ之ニ加盟シ

(二) 被告人望月治郎ハ當時被告人鈴木ノ自由人社ニ起居シ、
同人ヨリ無政府主義並農村運動等ニ付指導ヲ受ケ居リタ
ルガ、被告人鈴木ヨリ右農青社成立ノ事情ヲ聞キ深メ其
ノ協力ヲ求メラレ、更ニ昭和六年二月二十日頃前記被告
人宮崎ノ住居ニ於テ被告人鈴木、同宮崎、同星野及同八
木ノ四名會合セル際、被告人鈴木ト共ニ列シ、被告人宮
崎ヨリ更ニ成立事情等ヲ告ゲラレ、之ガ協力ヲ求メラル

裁判用紙

ルヤ、農青社ノ主義ニ共鳴シ、同社ガ前記目的ヲ有スル
結社ナルコトヲ了知ノ上、共ニ之ガ運動ヲ爲スベキ旨盟
約シ以テ之ニ加盟シ

(三) 被告人田代優三郎ハ同年二月下旬頃大阪市在小路被告人
宮崎ノ假寓ニ於テ、被告人宮崎及星野ノ兩名ヨリ右農青
社成立事情ノ詳細ヲ告ゲラレ、之ガ協力ヲ求メラル、ヤ
農青社ノ主義ニ共鳴シ、同社ガ前記目的ヲ有スル結社ナ
ルコトヲ了知ノ上、共ニ之ガ運動ヲ爲スベキ旨盟約シ以
テ之ニ加盟シ

(四) 被告人和佐田芳雄ハ同年八月末大阪ニ於ケル運動ニ行詰

リヲ感じ、東京ニ於テ新ナル運動ヲ展開セント欲シテ上
京シ、同志間ニ説ヲ聽ク中、農青社運動ノ信頼シ得ベキ
モノアルヲ聞キ、遂テ同社ノ出版物掲載ノ所説ニ共鳴シ
居リタル處ヨリ、同年九月三十日頃當時農青社出版事務
所ナル東京市外目黒町下目黒九百三十番地被告人鈴木不
之ノ住居ヲ訪ネ、同人ヨリ農青社成立事情ノ詳細ヲ聽取
シ、深ク農青社ノ主義ニ共鳴シ、同社ガ前記目的ヲ有ス
ル結社ナルコトヲ了知ノ上、翌日被告人田代優三郎ニ對
シ、ノ運動ニ參加ヲ申出デ以テ之ニ加盟シ

第三農青社ノ目的達成ヲ圖ラントシ

裁判用紙

(一) 被告人鈴木、同宮崎、同星野、同八木及同望月ハ昭和六
年二月二十日頃ノ會合及以後ノ會合ニ於テ農青社
主義ノ浸透、無政府主義革命意識ノ昂揚並同志獲得ニハ
地方行脚ニ依ル直接面談連絡ヲ捷徑且有效ト爲シ、各地
方ニ於ケル無政府主義者等ヲ訪問センコトヲ企テ
(1) 被告人八木ハ同年二月二十二日頃茨城縣新治郡小櫻村
ニ岡崎一夫ヲ訪問シ、農青社成立ノ事情並目的等ヲ説
述シ

(2) 被告人宮崎及同星野ノ兩名ハ共ニ同年二月下旬ヨリ同
年三月下旬迄ノ間、愛知、大阪、長野各府縣下二十數

- 名ノ無政府主義者ヲ歴訪シテ農青社ノ成立事情等ヲ説述シ、其ノ際大阪ニ於テ被告人田代儀三郎ヲ、長野縣ニ於テ伊澤八十吉ヲ農青社同志トシテ獲得シ、尙長野縣上野町ニ於テ島津徳三郎、山田彰、松藤健三郎、増田貞治郎ヲ農青社同志トシテ獲得シタル上、同人等ト共ニ連絡責任地區及其ノ責任者並信州獨自ノ啓蒙宣傳相互連絡機關トシテ「信州自聯」發行ヲ協議決定シ、
- (3) 被告人鈴木ハ同志小野長五郎ト共ニ同年三月二十五日

裁判用紙

頃神奈川縣高座郡大野村ニ草薙一郎外三名ヲ、次テ單獨ニテ同年四月初頃埼玉縣大宮町小作人社ニ木下茂外二名ヲ、尙其ノ頃同様單獨ニテ茨城縣新治郡小柳村ニ岡崎一夫外二名ヲ歴訪シ、農青社ノ成立事情、目的等ヲ説述シ

- (4) 被告人望月ハ同年四月頃靜岡市A思想研究會其ノ他ニ於テ三上由三、石川金太郎外數名ヲ訪問シ、農青社成立ノ事情等ヲ告ゲ

- (5) 被告人鈴木及同星野ハ同年四月下旬頃ヨリ同年五月下旬頃迄ノ間千葉、茨城ノ兩縣下ニ北島春作外十數名ヲ歴訪シ、農青社ノ成立事情等ヲ説述シ、尙其ノ際被告人鈴木ハ水戸市外ニ愛郷塾ヲ訪ネ塾頭橋幸三郎ト交々

所説ヲ交ヘ

- (6) 被告人望月ハ同年七月十日頃ヨリ同年九月中旬頃迄ノ間靜岡、大阪、倉敷、福山、所島、別府、大分、白杵、岡山、姫路、清水ノ各市町等ニ到リ福田武雄外十數名ヲ歴訪シ

- (7) 被告人八木ハ郷里長野縣ニ歸省靜養中ナリシヲ利用シ同年八月二十三日頃本市大名町原こと万ニ島津徳三郎ヲ訪ネ、據テノ打合ニ從ヒ農青社地方同志島津徳三郎、山田彰、伊澤八十吉、鷹野原長義ト共ニ會合シ、各自連絡地區ノ運動情況ヲ報告シタル上、被告人ノ提唱ニ基キ長野縣ニ於ケル地理區劃ノ設立並其ノ責任者ノ協議ニ入り、之ニ付テハ前記上野町ノ會合ニ於テ被告人岡崎及同星野ノ提唱ニナレル連絡地區ヲ其ノ儘昂揚シテ地理區劃ト爲シ、其ノ責任者モ略同様ト決定シ、又茲ニ決定ノ「信州自聯」ヲ早急發行スベキ旨協議決定シ、尙當日石會合ニ參立キ、他日革命蜂起ノ際奇スル爲、鷹野原ヲ除ク右ノ者等ト共ニ伊澤ノ紹介ヲ以テ松本聯隊ニ田中克巳ヲ訪ネ、軍隊内ニ於ケル運動ノ可能並軍隊兵營ノ情況等ヲ研究シ
- 次テ被告人八木ハ其ノ上京ノ途次、同年九月二十三日

頃上諏訪町ニ於テ、松藤鐵三郎、増田貞治郎、鷹野原長義ト會合シ、右松本ニ於ケル會合ノ經過ヲ報告シテ松藤及増田ニ其ノ承認ヲ求メテ之ヲ得

(8) 被告人鈴木ハ同年十月二日頃ヨリ同月八日頃迄ノ間福島、栃木、埼玉各縣下ニ佐藤政男外十數名ヲ歴訪シ、同人等ト運動上直接連絡ヲ爲シ

(9) 被告人八木ハ鷹野原長義ヨリ講演ノ依頼ヲ受ケタルヲ好機トシ、同年十月初旬長野縣小縣郡長久保古町、同

縣北佐久郡南大井村等ニ於テ無政府主義思想宣傳ノ講演ヲ爲シ、尙農青社地方同志鷹野原長義及南澤榮安松

裁判用紙

ト連絡シ互ニ農青社ノ運動情況等ヲ報告シ

(10) 被告人星野ハ昭和七、三、三月下旬頃長野縣諏訪郡下諏訪町ニ到リ、島津徳三郎、松藤鐵三郎及増田貞治郎ト連

絡シ、信州自由聯合發行ノ促進、信州ニ於ケル革命條

起等ニ付協議ヲ爲シ

(11) 被告人鈴木ハ同志舟木棧政ト共ニ同年五月初旬頃數日間ニ亘リ山梨縣下ニ櫻井一外四名ヲ歴訪シ、同人等ト運動上直接連絡ヲ爲シ

(12) 被告人鈴木ハ同年七月十日頃右舟木ト共ニ前奈川縣下

ニ草薙一郎外數名ヲ歴訪シ、農青社地方同志ト運動上

直接連絡ヲ爲シ

以テ右被告人等ハ夫々前記ノ企ヲ遂行シ

(二) (1) 被告人鈴木、同宮崎及同星野ハ農青社主義ノ浸透、

農青社各地方同志ノ紙上連絡、進シテ無政府主義革命發起ヘ動向付ケル爲、後記ノ如ク被告人八木、同

望月、同田代及同和佐田等ノ協加ヲ得、農青社組織當時機關紙「農村青年」(略稱農青)ノ發刊ヲ協議

シタルヲ始メトシ、其ノ後適宜會合協議ノ上發行名義人ヲ被告人鈴木ト爲シ、農青社出版事務所ヲ當時

被告人鈴木ノ住居ナル東京市外目黒町下目黒九十三

裁判用紙

十番地ニ置キ、農青第一、二號ハ主トシテ被告人鈴木

ニ於テ、農青第三、四號ハ主トシテ被告人宮崎ニ

於テ農青第五號ハ被告人宮崎ノ關與ナク被告人鈴木及同星野ニ於テ農青第六號ハ被告人宮崎及同星野ノ

關與ナク主トシテ被告人鈴木ニ於テ編輯ヲ擔當シ、

別紙農村青年社出版表記載ノ如ク其ノ發行日前頃發行趣旨欄記載ノ内容、種類及部數欄記載ノ出版部

勢ヲ以テ順次之ヲ出版シ、前記「黑色神話」、「自由人」、「小作人」讀者名簿等ヨリ、被告人鈴木

及同星野等ニ於テ農村ニ於ケル同志等約五百名ヲ選

擇シ、讀者名簿ヲ作り、出版ノ都度、同人等ニ一部乃至數部宛配付シ、又同人等ヲ中絶トシテ一般大衆ニ配付セシメ

(ロ) 被告人八木ハ右農青第一號乃至第六號ニ付或ハ原稿ヲ執筆シ、出版協議ニ與リ又ハ發送配付等ニ協力シ

被告人望月ハ右農青第一號乃至第五號ニ付出版協議ニ與リ又ハ出版發送配付等ニ協力シ

被告人田代ハ右農青第三號乃至第六號ニ付出版協議ニ與リ又ハ出版發送配付等ニ協力シ

被告人和佐田ハ右農青第三號乃至第五號ニ付出版協

裁判所

議ニ與リ又ハ發送配付等ニ協力シ

(2) 被告人鈴木、同宮崎及同星野ハ被告人望月ト共ニ昭和

六年五月下旬頃ヨリ同年六月頃迄ノ間數回會合ノ上、

農青社地方同志等ニ指示スヘキ農青社ノ運動方針ニ付

協議シ、農青社ノ行動綱領トモ細スヘキ各事項、之ヲ

「如何に爲すヘキカ」ト題シ出版發賣スヘキコト等具

体的ニ決定シ、被告人八木ハ右協議決定ニ付被告人宮

崎ヨリ聽取シ之ニ賛同シ、次テ右決定ニ基キ同年六月

下旬頃「如何に爲すヘキカ」ト題スルパンフレット約

一千部ヲ出版發行ノ上、其ノ頃之ヲ農青社同志其ノ他

前記農青讀者等ニ一部乃至數部宛配付シ以テ具體的ニ農青社ノ運動指針ヲ了知セシメ

(3) (イ) 被告人鈴木、同宮崎及同星野ハ被告人望月ト共ニ、

同年六月月上旬頃會合ノ上、一般農民大衆ヲ無政府主義的ニ啓蒙セン爲、之ガ啓蒙宣傳紙トシテ「農民の友」ヲ發行スヘキ旨協議決定シ、發行名稱人ヲ被告

人鈴木ト爲シ同月二十日頃「農民の友」第一卷第一號リフレット型約二千部、同年九月一日頃同模第

一卷第二號約五千部ヲ順次出版シ、其ノ都度前記農

青讀者等ニ數部乃至數十部宛送付シ、同人等ヲ通シ

裁判所

一般農民大衆ニ配付セシメ

(ロ) 尚被告人宮崎及同星野ハ後記ノ如ク被告人八木、同

望月及同田代等ノ協力ヲ得、農民大衆ヲ益々啓蒙シ

農青社運動ヲ發展セシメン爲、右「農民の友」ヲ「黒

色農民新聞」ト改題シ、發行日附昭和七年二月一日

新聞型ニテ約五百部ヲ出版シ、之ヲ前記農青讀者等

ニ數部乃至數十部送付シ同人等ヲ通シ一般農民大衆

ニ配付セシメ

(ハ) 被告人望月ハ右「農民の友」及「黒色農民新聞」ニ

付出版協議ニ與リ、一、二原稿ヲ執筆シ、發送配付

ニ協力シ、同「黒色農民新聞」ニ付テハ發行名義人ト爲リ

被告人八木及同田代ハ右「黒色農民新聞」ノ印刷發送等ニ協力シ

(4) 被告人宮崎及同星野ノ兩名ハ東京市民ニ對スル革命意識ノ煽動宣傳紙ヲ發行センコトヲ協議シ、昭和六年八月下旬頃革命新聞第一號プリントパンフレットニテ約二百部、同年九月上旬頃同様革命新聞第二號約百五十部ヲ出版シ、之ヲ東京市内ニ散布シ

(5) 被告人鈴木、同宮崎及同星野ハ會合ノ上橋幸三郎力加頭ナル茨城縣愛郷塾並同人等ニ依リ組織セラレタル日本村治派同盟ヲ批判シ、之ヲ印刷物ニ依リ發表シ以テ農青社主義ノ浸透徹底ヲ圖ランコトヲ協議シ、出版等

ニ付被告人八木ニ於テ協力シ、昭和六年六月中旬右愛郷塾批判ノ「協同組合はいゝか悪いか」ト題スルプリントパンフレット約百五十部、同年十一月初旬「日本村治派同盟を排撃せよ、傍書茨城縣愛郷塾の批判」ナルプリントパンフレット約三百部ヲ順次出版シ、其ノ都度一冊乃至數部宛前記農青讀者等ニ配付シ

(6) 被告人宮崎ハ昭和六年十月中旬頃被告人星野及同星月

等ト協議ノ上昭和六年中ニ於ケル全國無政府主義者ノ運動情勢ヲ調査シ、其ノ情勢ニ應シ今後ノ農青社ノ活動方針ヲ樹立シ、且同時ニ地方同志ノ運動ノ便ニ資センコトヲ企テ、其ノ頃各農青社地方同志ニ照會ヲ發シ之ガ報告ヲ基礎ト爲シ、尙被告人宮崎ニ於テ當時ニ於ケル運動ヲ批判シ、一縣内ニ一地理區劃ヲ確立シ、縣内無政府主義者ハ密接ニ連絡ヲ爲シ一縣的ニ結合シ、更ニ一地方的ニ、進ンテ全國的ニ結合シ、革命單位ノ充實ヲ圖ルコト並農村ヲ中心トスル農青社主義ニ從フ革命ハ大都市ニ於ケル無政府主義者團體ニ依ル暴力ト並行シテ完行スヘキ旨強調セル記事ヲ報紙掲載シ、同年十一月中旬頃之ヲ「全國情勢報告」ト題シプリントパンフレットニテ約七十部出版シ、其ノ頃一冊又ハ數部宛農青社地方同志等數十名ニ配付シ

(7) 被告人宮崎ハ昭和六年十一月頃日本共產黨其ノ他革命運動ノ進展セル情勢ニ直面シ、焦慮ノ末、農青社地方同志等農村ニ於ケル無政府主義者ニ對シ、革命ヲ今日ノ問題トシテ把握セシメ、即時武裝蜂起シテ急進ニ無政府主義革命ヲ成就スヘシト爲シ、之カ蜂起指針ニ關シ原稿ヲ作成シ、其ノ出版ニ付被告人星野、同八木、

同望月及同田代ニ謀リ其ノ承認ヲ得タル後出版、發送等ニ付被告人和佐田、同田代、同望月及同星野ニ於テ協力ヲ爲シ、其ノ以「吾國に於ける革命の完行に就て」ト題シプリントパンフレットニテ約七十部秘密出版シ一部又ハ數部宛長青社地方同志等ニ配付シ

(5) 被告人鈴木、同星野、同八木、同望月及同和佐田ハ昭和七年一月末頃被告人星野ノ提唱ニ基キ同年二月施行

ノ衆議院議員總選舉ヲ契機ニ政治否定ノ闘争ヲ展開シ以テ長青社主義ノ浸透徹底ヲ圖ランコトヲ協議シ、之

カ原稿ヲ被告人八木ニ於テ執筆シ、被告人望月其ノ發行名義人ト爲リ、同年二月頃「總選舉に際して青年諸君に訴ふ」ト題シ、パンフレットニテ約三千部出版シ之ヲ一部乃至數部宛長青社地方同志等ニ配付シ

裁判用紙

裁判所

(9) 被告人鈴木及同星野ノ兩名ハ無政府主義文藝思想雜誌ヲ發行シ以テ長青社主義ノ浸透徹底ヲ圖ラントシ、從來「黒旗」ヲ改題シテ「黒色眼線」ト爲シ、其ノ第一卷第一號及第二卷第一號ニ付テハ被告人鈴木及同星野ノ兩名ニ於テ、其ノ第二卷第二號乃至第六號ニ付テハ被告人星野ノ關係ナク被告人鈴木、其ノ他ノ者ニ於テ發行ヲ擔當シタル上、別紙黒色眼線社出版表記載ノ

如ク順次出版シ、其ノ記載ノ發行日頃前記長青讀者等ニ配付シ以テ長青社主義ノ浸透徹底ヲ圖リ

(三) 被告人鈴木、同宮崎及同星野ハ長青社組織當時ヨリ昭和七年一月頃迄ノ間、被告人八木、同望月及同田代等ノ協力ノ下ニ前記出版物ノ配付、地方行脚其ノ他ニ依ル直接面談及通信等ニ依リ長青社ノ主義ニ共鳴シ若シ革命雜誌アラシカ長青社主義ニ從ヒ相呼應シテ立ツ熱意ヲ有スルモノト認メ得ヘキ地方同志約百數十名ヲ獲得シ

(四) 被告人宮崎ハ自己ノ内縁ノ妻被告人八木並被告人田代等

長青社同志カ信州出身ナルノミナラス、信州ニ係属ナル

裁判用紙

裁判所

同志多カリシ爲自熱信州地方同志トノ連絡密接ナリシヨリ其ノ情勢報告並自己ノ行脚ニ依ル見聞等ニ基キ長青社信州ニ於ケル経済的不況ハ其ノ影響特ニ甚シク、農村ノ窮乏ハ農民ヲシテ終ニ專ノ斂生ヲ望マシメ居ルモノナリト推考シ、同時ニ日本共產黨其ノ他革命運動ノ熾烈ニ進展セル情勢ニ刺激セラレ、無政府主義革命ノ烽火線ハ先ツ信州ニ来ムヘシト爲シ、昭和六年八月十五日夜東京市外野方町ナル當時ノ被告人宮崎ノ住居ニ於テ、被告人星野、同田代並長青社同志平松秀雄、同金子廣只ニ對シ、信州ノ客觀的情勢ト信州同志ノ革命意識ノ昂揚トハ即時

裁判用紙

裁判所

見ルニ至ラスシテ終リ

無政府主義革命蜂起ニ逼セルニ依リ長野縣上伊那郡富縣村、同志伊澤八十吉ノ居村並同縣小縣郡大門村同志廣野原長義ノ居村ヲ中心ニ急速右革命ヲ敢行スヘク、松本縣駿ノ彈藥庫ノ爆破、鐵道ノ破壞、長野、松本等重要都市ノ燒却等ニ出ツヘキモノナリト提案シタルトコロ、被告人星野ハ當時情勢上已ムナシトシテ之ニ賛成シ、被告人田代其ノ他ノ者ハ直ニ之ニ賛同シ、所謂信州暴動計畫ノ協同ヲ遂ケタルモ、之ガ資金ニ付金第ヲ得ヌ又被告人八木等ヨリ信州ノ客觀的情勢及地方同志ノ革命意識ハ未タ同時的蜂起ノ狀態ニ達シ居ラサルヲ聞キ之ガ實現ヲ

(五)(1) 被告人八木ハ被告人宮崎及岡田代等ニ於テ革命蜂起ノ際ニ要スル大量資金等獲得ノ爲銀行ヲ襲撃セントノ意向アリタル處ヨリ之カ兇器取得ヲ企テ、昭和六年十一月

月中旬東京市神田區熱色新聞社ニ同志陳哲ヲ訪ネタル際偶々拳銃ノ話アリタルヲ好機トシ、同所附近茶店ニ於テ陳哲ニ對シ拳銃入手方ヲ依頼シ

(2) 尚被告人八木ハ前記拳銃入手ノ爲同年十二月初旬被告人

人田代ト共ニ大阪市ニ到リ、被告人八木ニ於テ其ノ入手資金ヲ被告人田代ニ交付シ、被告人田代ハ其ノ頃同

裁判用紙

裁判所

所ニ於テ拳銃密輸入商藤原某ニ買却方ヲ交渉シタルモ遂ニ入手スルニ至ラス

(3) 被告人八木ハ昭和七年一月十八日頃前記陳哲ニ面會セル際ニモ同人ヨリ拳銃入手ノ見込アル旨ヲ聞キタル處ヨリ、之ヲ被告人望月ニ告ケ、同月二十一日被告人八木及同望月ノ兩名ニ於テ東京市外上落合鄭泰成方ニ隨行ヲ訪ネ、更ニ右拳銃及手流彈ノ入手ヲ依頼シタルモ遂ニ果サス

(4) 被告人田代ハ其ノ後昭和七年六月初旬東京ニ於ケル

齊社同志カ竊盜事件ニテ檢舉セラレタルヨリ、彈壓ノ

自己ニ及バンコトヲ慮レ、之ヲ免ル、一方前記拳銃入手ノ目的ヲ達セントシ、又都上海ニ渡航シ、約二十日間滬在シ之ガ入手ニ努メタルモ果サズ、次テ同年八月上旬大阪ニ於テ同機奔走シタルモ遂ニ其ノ目的ヲ達セス

(六) 被告人鈴木、同星野、同八木、同望月、岡田代、岡和佐

田等ハ昭和七年一月下旬數回東京市外大崎町桐ヶ谷吉田

佃コト草村欣一方ニ會合ヲ爲シ、被告人宮崎及岡平松

秀雄ノ兩名カ竊盜事件ノ爲同年一月中旬檢舉セラレタルヨリ、陳等ノ再登壇、今後ノ出版方針及當局ノ彈壓ヲ

ル、爲地區的分散ヲ遂クヘキコト經農青社今後ノ運動ニ付協議シ、之ガ分散ノ先驅トシテ同年二月二十五日頃被告入田代及被告人星野ノ妻ノ兩名下阪シ、尙引續キ被告人星野、同翌月、同和佐田等モ下阪ノ豫定ニテ其ノ準備中、同年四月上旬竊盜事件ニテ檢舉セラレ、遂ニ農青社ハ同年九月二十七日附解散聲明書ヲ配付シテ發展の解消ヲ餘儀ナクスルニ至リ

以テ被告人鈴木、同宮崎、同星野ハ無政府主義結社農村青年社ヲ組織シ、被告人八木、同翌月、同田代、同和佐田ハ之ニ加入シ且何レモ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

裁判用紙

裁判所

乙

第一被告人星野準二ハ治安維持法違反事件ニテ昭和十年十二月二十四日檢事セラレタル二見敏男^堀トハ、昭和三年頃ヨリ相知リ當時同志トシテ親シキ間柄ナリシトコロ、昭和九年一月同人トノ會談並昭和十年八月日本無政府共產黨^テーゼノ送付ニヨリ右二見等カ日本無政府共產黨ヲ組織シ之ガ活動中ナルヲ了知シ居リタルカ、昭和十年十一月十二日突然同人カ自己ノ勳先ナル名古屋市東區千種町西森井野縣物産販賣幹旋所ニ來リ面會ヲ求メ、警察當局ノ